

第5学年「社会」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 学習内容から自分なりの学習課題をもてるようになってきた。
 - 授業で学んだことを、自分の言葉でまとめられるようになってきた。
- 課題**
- ▼ 資料を的確に読み取ったり、活用したりすることができるようになると良い。
 - ▼ 学習内容に対して、自分の意見をもったり、友達と意見を交流したりする活動が少なかった。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 資料や知識・理解をもとに、課題に沿った自分の考えをもつ力。
- ◇ 社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する資質・能力を育成する。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 毎授業の導入では、前時までに児童の中からでた学習課題を提示することで学習意欲を高める。

言語活動の工夫

- 資料の読み取りをもとに、見えること（事実）と言えること（原因や理由、解釈や意味付け）をセットにしてメモしたり発言したりする言語活動を行う。

ICT活用の工夫

- 意見交流の際にICTを活用し、資料をもとに読み取ったことや考えたことを共有して、他者の考えから自分の考えを見直す機会を増やす。

課題解決力育成の工夫

- 学習問題と自分の生活との関連付けを見出す「ふりかえり」を行う。

達成目標

- 国土の地理的環境の特色や産業の現状、社会の情報化と産業の関わりについて、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。